創刊15周年記念 連載

東京・日本橋～京都・三条大橋 東海道五十三次を往く

第2回

8月号の第1回から、ミスモ編集部では、日本橋から京都まで、53の宿場をめぐる一大プロジェクトをスタート。今回から、神奈川県へ突入。鎖国から開国という日本の転換期の中心となった宿場を訪れました。

川崎宿

「六郷の渡し」の宿場 歴史伝える資料館も

江戸から四里半（約17・7ｋｍ）、六郷川と呼ばれた多摩川下流を渡ると、二番目の宿場・川崎宿。かつては、徳川家康によって架けられた六郷大橋を渡ったが、元禄元（1688）年の洪水で流されて以来、明治頃まで渡し船を利用することに。本陣は、上（佐藤本陣）、中（惣兵衛本陣）、下（田中本陣）の三つがあった。現在は宿場跡周辺の道標や説明板で歴史を辿ることができ、かわさき宿交流館でも、東海道にまつわる模型や映像を数多く展示。これからの道のりを盛り上げてくれる。

田中本陣跡
寛永5（1628）年に設けられた宿内最古の本陣。江戸に最も近いので、「下の本陣」とも。ここ出身の田中休愚は宿の財政再建に尽力し、晩年は代官に。

六郷の渡し跡
渡し船は、当初は町人が請け負っていたが、宝永6年から川崎宿にバトンタッチ。この収入が宿の財政を大きく支えていたという。現在は川崎大師の灯篭が立つ。

東海道かわさき宿交流館
絵地図や模型、映像によって宿場の歴史を紹介。1階にはお休み処が。
☎044-280-7321
川崎市川崎区本町1-8-4　㊋9時～17時
㊡月曜（祝日の場合は翌日）　入場無料

旅人の衣装を着て記念撮影できる！

佐藤本陣跡
京都に近いので、「上の本陣」とも。十四代将軍、徳川家茂も宿泊したという。

小土呂橋
東海道と新川堀が交わる地点に架けられていた。享保11（1726）年に石橋になり、ベトナムから幕府に献上される象が渡ったという。親柱が小土呂橋交差点に残っている。

おみやげ

なら茶飯
釜入り・レトルト
780円
※東海道かわさき宿交流館で販売。
江戸中期、川崎宿にあった茶屋「万年屋」で飛ぶように売れたという「なら茶飯」は、お米に大豆や小豆などを入れ、煮だした茶で炊いたご飯。奈良の興福寺や東大寺で食されていたのが始まりだという。

よねまんじゅう
10個入 850円
もとは江戸時代初め、浅草金龍山門前で売られていた。江戸中期から、鶴見の名物にも。薄い羽二重餅で餡を包んだ小さな俵型で、白餡・こし餡・梅餡の三種類がある。
御菓子司 清月
☎045-501-2877
横浜市鶴見区鶴見中央4-28-18
㊋9時～18時　㊡日曜・祝日

神奈川宿

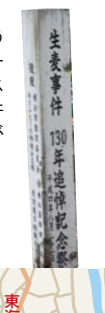
外交の要所となった幕末開港の舞台

川崎宿から二里半（約9・8ｋｍ）、神奈川湊を見下ろす高台にあった神奈川宿。嘉永7（1854）年の日米和親条約締結の舞台であり、その4年後の日米修好通商条約では神奈川湊が開港場に（その後、横浜に変更）。それに伴い、宿場周辺の寺院は各国の領事館や宿舎として使用されていた。広重の絵に描かれている台町は、現在、海が埋め立てられ景勝地の面影はないが、当時は茶屋町として有名だった。中でも、旅籠「さくらや」は、高杉晋作やハリスも訪れ、その後、料亭「田中家」として今も営業を続けている。

田中家
文久3（1863）年創業の料亭。明治7年には、坂本龍馬の妻、おりょうが働いていた。英語が話せたため外国人接待にも重宝していたという。
☎045-311-2621
横浜市神奈川区台町11-1
㊋11時30分～14時／17時～22時
㊡不定休　完全予約制

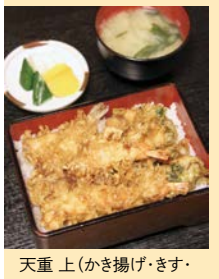
続く！

生麦事件の碑
江戸から京都に向かう薩摩藩の島津久光一行を横切ったイギリス人が殺害された事件の遭難碑。この事件が薩英戦争の引き金に。



生麦魚河岸通り
国道駅近くの旧東海道は、もともと漁師町だった。その名残りで、現在も早朝には「生麦市場」が開かれ、新鮮な魚を気軽に購入できる。

おすすめグルメ



天重 上（かき揚げ・きす・海老）1,700円

味童 天金
☎045-521-5895
横浜市鶴見区生麦5-12-2
㊋11時～22時(L.O.21時)
㊡第2・4月曜（祝日の場合は翌日）
JR鶴見線国道駅から徒歩1分の旧東海道沿いに立つ割烹。天ぷらはもちろん、お刺身からうなぎまで、板前が丹精込めてつくる料理は定評がある。